

## (題名) 幼児向けエプロンシアターを用いた禁煙指導

### ～「みんなでやっつけよう！たばこ大魔王」

姫路薬剤師会 こども未来の会 金沢 久美子、杉本 香織、泉 憲政

【目的】健康日本21における健康増進法などにより喫煙の害や受動喫煙の影響も認知されつつある。しかし、年齢が4～6歳の幼児たちは喫煙の害を知らされる機会がなく、周囲の大人達からの受動喫煙の影響を避けるべきがない。若い親世代の喫煙率は依然高く、未成年の喫煙も問題となっているのが現状である。そこでわれわれは、就学前の幼児に喫煙防止教育を行うことが重要であると考え、幼児でも解りやすい喫煙防止教育の方法を考察し、エプロンシアターという手段を考案した。ここで、その手法を紹介する。

【対象と方法】対象は姫路市またはその近郊の就学前の幼児。保育園、幼稚園へ喫煙防止教育に行く場合は幼児のみ、児童センター等の育児サークルの場合は幼児とその母親を対象に喫煙防止教育を行う。

エプロンシアターはエプロンのポケットから人形を取り出しながら物語を進めていく人形劇の一種であるが、一方的に物語を聞かせるよりも、幼児自らが参加することにより、より楽しく、心に残ると考え、「参加型」の教材とした。幼児一人一人に簡単な楽器類を持たせ声や音を出しながら、一緒に力を合わせてたばこの呪いにかかっている大人を助けるという筋書である。幼児達自身が主人公となり話を進めていくので、常に子供達は集中している状態を保てる。ただし集中力を保てる時間は15分～20分程度と考えられるため、その時間内で終わらせるように心掛ける。また、幼児は文字や難しい言葉はわからないため、なるべく目で見

て理解しやすいように工夫が必要である。例をあげると、エプロンの肺はたばこを吸っている人を茶色くたばこを吸わない人ののはピンクで作成している。見て解りやすく物語に参加して楽しいものとして演じている。



画像：エプロンシアターの実物

【結果】子供達はこのエプロンシアターを見ることにより、たばこに害があることを理解できるが、3歳以下の場合には理解が難しい。実演に向く年齢層は4～6歳と考えられる。また、自宅で話の内容を家族に伝えるため、喫煙者家族の禁煙のきっかけとなる場合も見受けられた。

【結語】教材の工夫により、幼児でも充分たばこの害を理解することができ家族にその害を伝えることができることがわかった。幼児自らが学ぶのみならず、家族の禁煙のきっかけになるという二次的効果も期待できることから、幼児に対する喫煙防止教育が有効であることが示された。